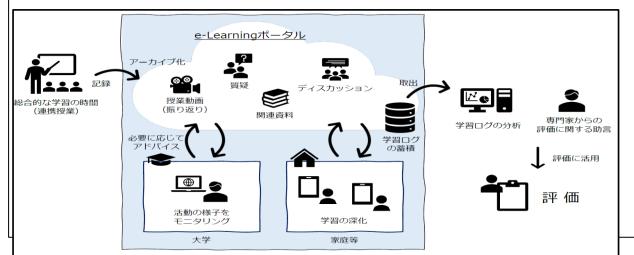
特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する支援の推進事業 取組の概要

団体名:三重大学 教育学部 附属小学校

研究概要 : 学習上の困難への支援、学校内の環境整備、学校外の学びの場の提供などといった支援によって、特異な才能のある児童生徒が困難を克服でき、多様性を包摂するような学校環境づくりをめざす。 「総合的な学習の時間を活用し、特定分野の特異な才能に対し、特異な才能に対し通常カリキュラムより も体系的で深化した幅広い内容の学習を行う「拡充」を、総合的な学習の時間において展開する。

令和5年度の取組

総合的な学習を使用して、大学生レベルの高度な内容の講義を医学部を中心とした講師に提供していただいた。6回シリーズの講義を受講し、それぞれ聴講と質疑をくりかえした。最後に興味関心のあるテーマを選定し、研究報告会を実施した。学習ログを丁寧かつ継続的に記録し、大量なデータを分析に活用した(下図)。本校のICT環境をフルに活用することができた。年間を通して運営指導委員会の先生方に取り組みについて相談し、フィードバックを得た。



令和6年度の取組

令和5年度は子どもたちからも、保護者からも大きな反響を得ることができた。また6回シリーズの講義の先生からも好評を得られた。

令和6年度も基本的な枠組 みについて大きな変更はなく、 継続的に実施する。子どもた ちの学習ログ(ビッグデー 夕)の分析に関しては、専門 家と相談し、より広く、より 深く分析し、次年度以降の研 究や教育実践に活かしていき たい。

背景

- ・文部科学省「特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究」団体として、採択された。
- 特異な才能を持つ子どもは、特定の分野で突出する才能をもつ。
- 一方で、授業が簡単すぎて苦痛、周りと話が合わない などの理由から、不登校になるケースもある。

<u>様々な才能を持つ子どもに合わせた授業や学校づくりへ</u>

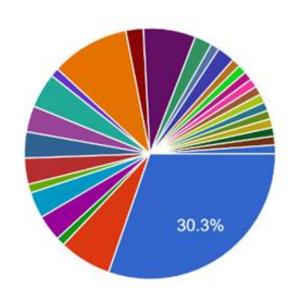
附属学校の使命に基づいた取組

教育の理論・ 実際に関する 研究及び その実証

学生の 教育実習 地域教育の 改善・進歩 への寄与

医・歯・薬・看護系志望が3割(昨年度調査)

将来の夢(職業)は何ですか。 89件の回答



- 医・歯・薬・看護系
- 保育・教育系
- 福祉系
- 栄養・調理・製菓系
- 美容・ヘアメイク・ネイル系
- 旅行・航空・ホテル・ブライダル系
- 服飾系
- マスコミ系

▲ 1/4 ▼

本実証事業で期待されること

- 特定分野の特異な才能に対する大学と連携した取り組み
- "早修"ではなく"拡充"
- •知識の提供ではなく、自ら深く学ぶ機会の提供
- ・認知や発達の特性に起因する学習上の困難への支援
- 学校内の環境整備
- 学びに対する内発的動機付けを高める関わり

評価について

- ・児童へのアンケート調査 (iPadを活用したWeb調査)
- e-Learningポータルを活用した学習ログ
- 児童が記述したレポートの分析

調査データは研究スタッフのもとに厳重に保管され、統計的に処理されます。

個人のプライバシーの保護については十分配慮いたします。 研究目的以外には使用いたしません。

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

6月22日(木)5・6限

「遺伝子が環境によって変わる —人はいつでも立ち直れる一」

講師:医師 梅本 正和 氏(うめもとこどもクリニック)

7月14日(金)2・3限

「法と医療の接点」

講師:弁護士 増田 聖子 氏(増田・横山法律事務所)

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

• 9月

「重症心身障害児の治療」

講師:岩本 彰太郎 氏

(三重大学小児科/小児・AYAがんトータルケアセンターセンター長)

• 10月

「救急医療の最前線」

講師: 今井 寛 氏(桑名東病院 理事/

元・三重大学医学部付属病院救命救急・集中治療センター長)

6年生児童が受ける専門家の講義(全6回)

• 11月

「小児の神経性疾患治療の最前線」

講師:米川 貴博 氏(三重大学小児科)

12月

「食物アレルギー疾患の最前線治療」

講師:長尾 みづほ 氏(三重病院 臨床研究部長)

外部の有識者によるサポート体制

1	◎池澤聰	東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成寄付講座特任准教授
2	熊崎博—	長崎大学医学部精神神経科学講座「未来メンタルヘルス学分野」教授
3	吉川雄一郎	大阪大学大学院基礎工学研究科 准教授
4	寺田和憲	岐阜大学 工学部 准教授
5	梅本正和	うめもとこどもクリニック 院長

まとめ

- ・文部科学省「特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究」団体として、採択された。
- 三重大学と連携し、実践事例の蓄積を図る。
- 今年度は6年生の「総合的な学習の時間」で展開する。
- 評価は児童を対象にアンケート調査等で行う。
- 専門家を招聘し、医学・生理学の分野の講演を行う。